

DIALOGUE (学習号) 16

2014年6月2日 発行

中間テストに向けて

中学校生活はじめての定期試験を迎えます。本校での試験前の取り組みとともに、試験期間中の注意点・ご家庭でご留意いただきたいことをまとめておきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1. テストまでの流れ

本校では、試験2週間前(=今回の前期中間テストではグリーンスクールがあった関係で5月17日でした。)に、「有言実行シート」「試験範囲表」を配布します。「有言実行シート」は、テストでの目標、具体的な目標点、そのための勉強内容・進捗状況のチェック、勉強の妨げになること/ものをあげてその改善策を考える、といった内容です。教室に掲示して「有言実行」の補助としますが、同時に友だちのシートから良い勉強法を学んだり、切磋琢磨するきっかけになることも期待しています。今回の中間テストの「有言実行シート」は既に記入を終えて、教室に掲示するとともに、お子様のお手元にも返却してあります。ぜひ一度ご覧いただき、目標達成に向けてお声掛けいただければと思います。

試験1週間前(=同前5月29日木曜日)に、試験日程(何日目の何時間目がどの科目か)が発表になりました。「有言実行シート」の進捗状況を見直し、試験までの学習プランを再構築するタイミングです。また、試験1週間前から放課後の部活動はありません。試験に向けて早めに帰宅をし、十分な学習と睡眠の時間をとっていただきたいと思います。一方で、放課後に学校で勉強してから帰る生徒もいます。勉強する仲間を作ることは、今後の自主自立的な学習姿勢に大きく関係します。放課後の教室や図書館を、うまく利用してほしいところです。

なお、この期間の放課後には、各教科の勉強会や補講が設定される場合があります。試験に向けての補助的な学習の機会です。指名の場合も任意(=自由参加)の場合もありますが、積極的に利用してください。当然ですが、直接、教科担当にも質問をしてきてほしいと思います。よく「恥ずかしくて」や「積極的な方ではないので、先生から声をかけて」というお話を伺いますが、徐々にでも「自分のための勉強に、自分から関わりを持っていく」こと、つまり、自分から積極的に学習活動のチャンスを作っていくことを、学校でもご家庭でも働きかけて、お子様たちの学習に対するモチベーションを築かなければなりません。難しいことですが、こういった学習活動に前向きな雰囲気を持つ学習集団に育てていきたいと思います。ご家庭でもお声掛けいただきたいと思います。

また、教科によっては、試験当日に授業ノートや授業ファイルの提出が求められる場合もあります(∵授業ノートは、授業はもちろん、試験勉強に必要ですので、ノートチェックが行えるのはノートを使用しない試験期間に限られてしまう)。試験ももちろんですが、こうした提出物を忘れないよう、ご注意ください。

2. 試験期間中～後のスケジュール

中学1年生は「国語・代数・幾何・英語・社会・理科」の6科目、英・理・社は60分、国・代・幾は50分、いずれも100点満点です。国語は「国語A・B・漢文」、英語はリスニング、社会は「地理・歴史」、理科は「理科A・B」をそれぞれ含み、理社は各科目50点ずつの配分です。また理社は2年生以降、科目ごとに50分100点に細分化されます。

3日間の試験期間ですから、1日2科目。各日とも2科目終了後に「PP」という解き直しと復習のための時間を設けていますので、下校はおおよそ正午ごろです。また、最終日から、放課後の部活動が再開されます。

試験明け6月9日月曜日から通常授業です。試験答案の返却は、翌週の各教科の授業時間内に行います。問題用紙・模範解答(=PP時に配布済み)が必要です。全教科の返却(と、あれば訂正)が終了してから、成績表をお返しします。6月下旬ごろとお考えください。成績票返却とともに、試験結果の見方、活かし方などについてお知らせしたいと思います。

3. はじめての中間試験を迎えるに当たっての注意点

以下、ご家庭でご留意いただきたい点についてまとめます。成績そのものも気になりますが、試験に対する心構え、有り体に言えば「試験を甘く見る／なめてかかる」といったことの萌芽が、この試験で芽生えてしまわないように気をつけたいところです。

◆定期試験＝簡単、模擬試験＝難しい、ではない

「定期試験は、学校の授業内容を確認するテストだから簡単だ、模擬試験の方が難しい」といった考えは誤りです。試験範囲が明示されている、学校の授業内容である、という点では模擬試験に比べて「勉強しやすい」のは確かです。しかし、試験の難しさ、そこで問われている学力が低いということではありません。むしろ、試験対策がしやすい＝復習しやすいという点からいえば、

◆定期テストは、高得点を目標とする

ことが大切です。とくに中学1年生の前期中間は、試験範囲が少なく、かつ確実に定着してほしい内容です。テストに対する良い意識を持つという意味でも、今回は高い達成目標に向けて努力させたいところです。一方で、

◆定期テストは、満点が取りやすいテストではない

ということも、また事実です。授業内容をていねいに確認し、知識やスキルの定着を図るという意味で、「基礎」「標準」といった言葉で表わされるような問題が多い半面、いわゆる「応用」といわれるような、授業内容を基礎をとしてそれを活用したり実践的に応用したり、あるいは試験という限られた時間や状況の中での思考力を問う問題が必ず出題されます。従って平均点は概ね70点/100点満点程度を想定しています。この意味でも、先述の「定期試験＝簡単」ではありません。また「基礎・標準＝簡単、応用＝難解」ではありませんし、「選択肢問題＝簡単、記述式問題＝難解」でもありません。家庭学習を中心とした、日々の学習の積み重ねがなければ、「応用が難しかったから点数が悪かった」といった安直な、言い訳以前の結果しか得られないでしょう。

◆定期試験の結果は、直前2週間の「詰め込み」ではなく、日々の家庭学習の積み重ねにある

ということも、ぜひ、この機会にご家庭でもう一度ご確認いただきたいと思います。試験2週間前は、継続的な家庭学習の「上に」、特に試験対策の勉強を「加えて」行う期間です。

◆「試験2週間前」とは、全教科の授業の復習をここから始めても「間に合う」という意味ではない

これは、お子様たちが勘違いをしやすい点です。今後、試験結果や取り組みについての「言い訳」になってしまう部分です。ご注意ください。繰り返しになりますが、試験勉強は試験前にすればよい、という意識を持たせてはいけません。ここから平生の家庭学習習慣が崩壊し、結果として課題不対応、授業態度の悪化という悪循環が始まります。また、模擬試験に対する姿勢も利他的なものになり、ただ「点数がよかった悪かった／順位がどうだった」という、幼い競争心しか得られません。この幼い競争心は、もしかしたら、中学受験のために通い続けた「塾での勉強観／学習観」なのかもしれません。他者との競争は、定期テストにおいても厳然としてありますが、最終的な競争相手は全国の優秀な学生たちなのであって、私たちはその競争相手と戦う「切磋琢磨し合う仲間」のはずです。成績返却の際にも触れますが、ご家庭も含めて「順位」を気にされる方が大変多いですが、注意すべきことだと考えます。少なくとも定期テストは学年わずか204人の中の順位であり、1位があれば当然204位もいます。問題は、例えば、その集団が全国偏差値で70ならば、たとえ204位でも相当に優秀なわけですし、70点平均が求められるテストで学年全員がサボった結果、学年1位の生徒でも20点しか取れていなかった、といったことが、「順位を気にする」という行為によって、すべて見えなくなってしまう点にあります。大変怖いことです。

◆定期試験は、「順位」ではなく「点数」を目標にする

私たちが最終的に目指すのは、自立的な学習習慣を身に付けた生徒であり、それなくして5年後の大学受験に臨むことは困難です。

- ・継続的な学習姿勢 = 家庭学習・授業を大切に作る姿勢、忘れ物をしない、提出物を出す
- ・学習到達を問う = 定期テスト
- ・全国レベルでの自分の実力を計る = 模擬試験

・これらの目標を把握し、意識を喚起し、スケジュールを管理する = 有言実行シート、目標達成シート、手帳
現在取り組んでいる、様々な学習活動を礎に、今回の定期テストという機会があるということをご理解いただきたいと思います。

最後に、

◆学習習慣の確立期に当たる中学1年生は、ご家庭での学習・生活面でのフォローが必要不可欠である

ことをお願いしたいと思います。中学受験での苦勞から解放されて、「もう中学生なんだから、自分で考えてやりなさい」とお話されているご家庭も多いのではないのでしょうか。お子様たちの自立を促していく意味で、とても大切なことです。しかし一方で、「自分で考えた」結果が誤っていることが多いのも、事実です。それを例えば「自己責任」といった言葉で片付けてしまうこと、あるいは賞罰の価値観と結びつけてしまうこと(=例えば成績が良かったら〇〇を買ってあげるなど)は、大変危険で恐ろしいことではないでしょうか。

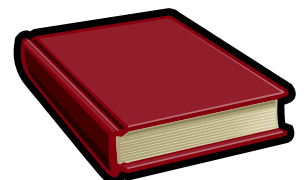
何のために勉強するのか、何が間違っていたのか、どう間違っているのか、大人はどう考えるのか、社会一般ではどうあるべきことなのか、といった大人や社会、一般通念に照らして、子どもたちの判断誤りを正していくことが、この時期には必要なことです。つまり、お子様たちの思考／試行の「過程」に寄り添い、評価を与えていくということです。先の例は「結果」だけを問題視しているもので、刹那的・表層的な問題意識、自己意識しか育てません。

第二次性徴、思春期といった心身ともにアンバランスになり、生活面・精神面で安定を欠きやすい時期です。気持ち落ち着かない子どもに学習成果を求めるのは酷なことです。手帳や有言実行シートなどの仕掛けをうまく利用しながら、自主自立的な学習と生活を促していきますが、それを支えていただくご家庭のフォローは、必要不可欠です。カバンの中をチェックする、明日の準備をしてあげる、宿題を終えるまで横に座っている、といった「ベッタリとした」関わりは必要ありません。しかし、近くから見守っていること、失敗しそうになっている時には支えてくれることを、お子様たちが感じられる距離感を、ご家庭でも模索していただきたいと思います。子どもたちにとっても難しい時期ですが、私たち大人の側にとっても、子どもたちとの接し方・物理的／精神的距離の取り方を学んでいく時期でもあります。

* * *

以上、多くのお願いをいたしました。試験当日まで残りわずかですが、この機会を通して、お子様たちがまた一歩中学生として自立した大人として成長することを期待しています。ご家庭でも話題にいただければと思います。

なお、お子様には「はじめての中間試験に向けて」というプリントも配布いたしました。タイプ別の勉強法なども紹介しています。あわせてご覧いただければと思います。



学力推移調査より

1. 学習状況リサーチから見る16期生の傾向（4月に行ったアンケート結果）

	全国	校内(今年)	校内(昨年)
勉強についていけるか不安である	35.40%	29.40%	50.50%
数学が得意である		32.90%	38.90%
国語が得意である		14.20%	11.60%
本も新聞もほとんど読まない	15.50%	14.20%	7.40%
学習時間(授業がある日)	101分	115分	122分
学習時間(休日)	151分	198分	213分

お子様と一緒に
お読み下さい。

中学校の勉強についていけるかについて不安に思っている生徒が例年以上に少ないことが特徴的です。学習について自信を持っている生徒が多いといえる一方で、中学校の学習を楽観的に捉えていないかが心配です。

例年どおり、国語が得意な生徒よりも数学が得意な生徒が多いのですが、この5年間を振り返ってみると国語が得意という生徒が最も多い学年です。

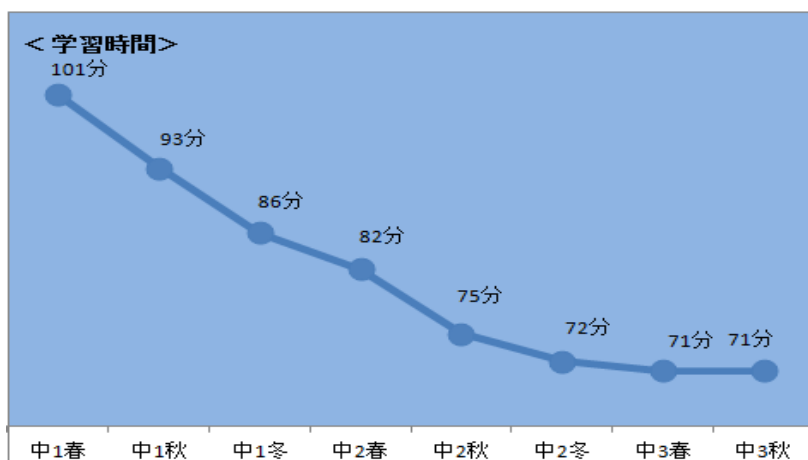
本も新聞も読まない生徒が昨年の2倍以上いる点が気になります。

学習時間については昨年より微減という状況です。5月に行った学習時間調査の結果を下に取り上げます。

	校内(今年)
学習時間(授業がある日)	134分
学習時間(休日)	224分

4月当初よりも学習時間は増えており、中学校に入って宿題や予習復習にしっかりと取り組んでいる生徒が増えているようです。

ここで、ベネッセの出している学習時間の変化のグラフを確認します。



全国的な傾向ですが、学習時間は学年が進むごとに少なくなり、中3の秋に底を打ちます。これには様々な理由がありますが、中学校入学時は学習に対するモチベーションも高いのですが、中2、中3の中だるみの時期では学習時間が少なくなりがちです。1年後、2年後にどれだけ学習時間をキープできるかが成績向上に向けて一つの大きなポイントとなります。

2. 試験結果から見る学習、生活習慣

以下の資料では学年を4つの成績層に分けて分析します。A～Dは4月の学力推移調査の結果で16期生を4つの層に分けたものです。

A層：校内順位上位20%、B層：同20～50%、C層：同50～80%、D層：順位下位20%
 なお、表の中の単位は全て%です。

①朝食を週何回食べるか。

	校内	A層	D層	全国
毎日	90.2	94.3	82.9	89.5
週に5～6日	4.9	2.9	12.2	5.1
週に3～4日	2.5	2.9	0	2.5
週に1～2日	1	0	0	1.4
食べていない	1.5	0	4.9	0.9

②塾での1週間の学習時間・国語（小学校時代）

	校内	A層	D層	全国
通っていない	0.5	0	2.2	16.5
1時間	10.3	3	6.5	17.6
2時間	22.5	30.3	10.9	19.8
3時間	21.6	18.2	26.1	13.6
4時間	14.7	18.2	17.4	9.8
5時間	11.8	18.2	13	6.8
6時間以上	18.1	12.1	21.7	14.7

③塾での1週間の学習時間・算数（小学校時代）

	校内	A層	D層	全国
通っていない	1	2.5	0	12.4
1時間	4.9	5	4.8	15.3
2時間	10.3	7.5	14.3	18.2
3時間	21.1	27.5	19	13.7
4時間	18.6	17.5	21.4	10.8
5時間	13.7	15	7.1	8.5
6時間以上	28.4	25	28.6	20.5

④算数の宿題への取り組み（小学校時代）

	校内	A層	D層	全国
必ず取り組みすべてできた	46.6	65	33.3	41.1
必ず取り組みだいたいできた	28.9	20	35.7	39.6
必ず取り組むができないところが多くあった	7.4	2.5	11.9	8.6
時々やらないことがあった	9.3	7.5	11.9	7.3
ほとんどやらなかった	3.4	2.5	4.8	1.4
宿題はなかった	2	0	2.4	1
その他	1.5	2.5	0	0.5

⑤国語のノートの取り方（小学校時代）

	校内	A層	D層	全国
板書と重要な事をノートにとっていた	45.1	51.5	32.6	64.4
重要なことのみノートにとっていた	18.6	24.2	17.4	8.6
板書のみノートにとっていた	26.5	18.2	34.8	23.4
ノートはとらずに教科書に書いていた	4.4	3	4.3	1.5
ノートはとっていなかった	4.4	0	8.7	1.5

⑥授業がある日の学習時間（小学校）

	校内	A層	D層	全国
ほとんどしない	4.9	2.9	4.9	5.1
30分	10.3	8.6	12.2	14.5
1時間	20.1	14.3	14.6	23.4
1時間30分	16.7	22.9	12.2	17.4
2時間	19.1	22.9	26.8	19.1
3時間	15.7	20	14.6	11.3
4時間	6.4	5.7	4.9	4.9
5時間	2.5	0	0	2.4
6時間以上	2.5	2.9	4.9	1.3

⑦授業がある日の学習時間（現中学2年生）

	校内	A層	全国
ほとんどしない	3.2	0	8
30分	7.5	0	15
1時間	26.2	18.9	24.8
1時間30分	37.4	48.6	21.4
2時間	20.9	21.6	22.5
3時間	3.7	5.4	6.8
4時間	0	0	0.9
5時間	0	0	0.2
6時間以上	0	0	0.1

①の資料より朝ごはんをしっかり食べている生徒が上位に来る傾向があると言えます。以前の学年通信でも触れましたが、朝の栄養補給は勉強の効率を上げるためにも必須です。また、生活習慣の安定という意味でも落ち着いて朝食を食べている生徒が成績を伸ばします。

②、③は小学校時代の塾での学習ですがこちらは国語・算数共にとても良く取り組んでいます。その一方で中学校で起こりがちな問題は、小学校の時にはテキストや宿題など与えられたものに取り組むだけで良かったことに対して、中学校以降の学習では自主的な学習が必須となります。与えられた宿題をやるのは当たり前。プラスアルファで自ら取り組むことが中学校で上位をキープするためには欠かせません。

④では宿題の取組みについて触れています。当然の結果ですが宿題を疎かにしているようでは成績の向上は望めません。また、⑤ではノートを取り方について見てみましょう。ノートをとっていないのはもちろんですが、成績の向上に向けては先生の黒板をただ写すだけではだめです。先生たちは大切なことを言葉で伝えることもあります。そんなときに、ポイントを自分なりにノートにメモをすることはとても大切です。

⑥最後に前半の部分でも触れましたがもう一度学習時間について触れます。学校で授業がある日の学習時間は入学の段階では成績別では大きな差は生まれません。しかし、1年後のみなさんの姿を見てみましょう。現中学2年生の先輩たちは成績上位者で勉強をしていない人はいません。勉強面で結果を出すためには地道な努力が必要です。

全体を見ると16期生のスタートは悪くない結果であったと思います。しかし、ここで油断をして努力をせずに1年間を過ごすと取り返しのつかないことになります。この1年間のスタートダッシュで6年後の姿がある程度決まってしまうことがベネッセの調べでもわかっています。ぜひ、後悔の無い1年間を送れるように一人ひとり自覚を持って学習に向かってください。

